

会議録	日時 令和7年9月26日(金) 14:00~15:00	場所 柏葉尾苑 地域交流室	記録 手塚
会議名 令和7年度第3回 運営推進会議	参加者 ご家族代表 駿河厚生会役員理事 門池地域包括支援センター 実習生 駿河厚生会理事長 河野義文 柏葉尾苑生活相談員 手塚春菜 柏葉尾苑介護支援専門員 杉山勝行 柏葉尾苑フロア長 山本拓真 柏葉尾苑看護師 木村秀子 柏葉尾苑管理栄養士 宮井まゆか		
議題	内 容		
1. 開会の挨拶	理事長「お集まりいただき、ありがとうございます。今日はまた暑くなりましたが、徐々に寒くなってくる時期になりましたので、身体にお気をつけていただきたいと思います。では、柏葉尾苑第3回地域運営推進会議を開催します。」		
2. 入所者の状況報告	手塚「現在、お陰さまで満床となっております。平均年齢においては、女性の方が高く、全体では84.93歳になります。また、入院が2件、入退居が1件ずつありました。」 ※レジメ3ページ目参照。		
3. 活動状況の報告	<p>【行事】</p> <p>山本「避難訓練では、避難通路であるスロープを使用し、実際に避難完了までに要する時間等を確認しました。スロープを降りた先には、段差があり、安全に誘導するにはどうしたらいいか、実際に体験することができました。敬老会では、飛龍太鼓がお越しください、フジビューホームまで演奏を聴きに行きました。また、昼食会を行いましたが、あじさいユニットでは、年間目標として“食事レクを充実させる”ことを掲げています。以前から、おやつレクは行っていましたが、食事も食べたい物を召し上がっていただき、充実させていきたいと思います。」</p> <p>【研修】</p> <p>山本「法人として、個々のスキル向上を目標としています。柏葉尾苑でも、個々に研修を受けるよう年間計画を出しているため、今後も取り組んでいきます。」</p> <p>※レジメ5ページ目参照。</p> <p>【ヒヤリハット】</p> <p>0件報告</p>		

	<p>山本「1件もないことが問題であると捉えています。些細な事でも挙げられるように職員に呼び掛けていくとともに、書類の様式を見直す等して、出しやすいよう工夫が必要と考えています。」</p> <p>【インシデント】</p> <p>5件報告</p> <p>山本「スタッフの“大丈夫だろう”という思い込みで起きてしまっているインシデントが目立ちました。いつも通りと安易に考えず、“もしかしたら”を常に頭に置いてケアを行うよう心掛けていきます。また、私たちはご本人の許可を取って介助するのが基本です。意思表示が難しい方でも、ご本人にきちんと説明し、同意を取ることを徹底しています。」</p> <p>【事故報告】</p> <p>0件報告</p> <p>山本「今回は、0件でした。インシデントと事故報告の違いですが、事故報告は、事故に対して、病院受診をしたり、医師の処置を必要とした場合等、沼津市に報告を行ったものとしています。それ以外の事故において、インシデントとさせていただいております。」</p> <p>※レジメ6~7ページ目参照。</p> <p>4. ご家族様アンケートの結果について</p> <p>※レジメ7~8ページ目参照。</p> <p>【Q1】</p> <p>杉山「自分で意思表示が出来ない方もいらっしゃいます。そういう方も含め、ご本人やご家族の思いをくみ取るように努力していきたいと思います。アセスメントも他職種と協力し、しっかりと行っていくことも大切だと思っています。」</p> <p>【Q2】</p> <p>山本「介護の基本として、ご本人の意向をくんで対応を、と考えるが、やはり意思表示が難しい方もいらっしゃいます。ご家族からも意向を伺つたりすることで、どのようにケアをしていくかを今後も考えていきたいと思います。」</p> <p>【Q3】</p> <p>木村「入居者様の中には、ご病気等で自分から言えない人もいます。ご家族が面会に来た時に変化に気づく前に、毎日いる私たちスタッフが先に“いつもと違う”と気づくことが重要だと思います。早期発見し、早めの受診をすることでご本人への負担も少なくて済みます。日頃からご家族との会話で日常生活の様子を伝えていくことを始め、傷やアザ等ができてしまった時には、しつこいくらいにご家族に連絡をさせてもらっています。」</p> <p>手塚「その辺りの連絡は実際いかがでしょうか、Aさん。」</p> <p>A様「そうですね。(携帯)電話が鳴ると、“柏葉尾苑”と表示されるので、何かあったのか、と一瞬ドキッしますが、電話に出ると細かく教え</p>
--	--

てくれるので、そういうことか、と安心します。」

【Q4】

手塚「入居いただく時に、相談や困り事などがあれば、受付担当者は私なので教えてください、と説明はさせていただくものの、365日毎日出勤しているわけではありません。相談員だから、ケアマネだから、看護師だから等、職種にこだわらず、柏葉尾苑の職員として、誰にでも相談等のお話しができるようにしていかなければならいと考えています。」

【Q5】

山本「介護は目配り気配りだと思います。私たちも、飲み物を毎日同じ時間に飲まず、飲みたい時に飲んでいます。それと同じように、時間でケアするものではいけないと感じました。」

理事長「施設の臭いがしないようなケアをしてほしいです。スタッフは、全国個室ユニット協会のユニットケアを目指し、研修を受け、勉強をしていると思います。いわゆる、利用者本位のケアです。職員本位ではなく、利用者本位です。施設で生活するのですが、できるだけ在宅生活に近い生活に向かって、ご本人が望む、希望する生活を、数年後には可能になるよう努力していかなければなりません。まずは環境からです。設えの部分です。自宅で使っていたものを持って来てもらったりして、環境を整えていくことです。」

手塚「Aさんには、柏葉尾苑が開設した約2年半前からご利用をいただいていますが、実際に2年半で変わった部分や施設に対して感じている部分はいかがでしょうか？」

A様「母が2年半前に入らせていただいたのも、自宅でみる、というのが難しいと思い、あきらめているのですが、こちらに入居した当時は要介護3でした。この3月で更新して、要介護5になりました。状態は変わっていくので、仕方のないことですが、1番辛いのは言葉が出ないことです。面会に来た時に、長いこと話していると徐々に覚醒てきて言葉が出てきます。私は、社団法人の成年後見人をやっているため、他の施設にお邪魔することもあり、他の施設でもやはり、利用者さん同士の会話が成り立たないのを見ています。それも仕方のないことだと思います。それでも、やっぱり会話する機会が増えたらいいな、と思います。」

理事長「色々な原因が考えられると思います。日課の見直しや業務の見直し等を行い、利用者と接する時間を増やしていくことが必要ですね。」

山本「先ほどお伝えした中に、おやつフレクのことも触れましたが、どうしてもスタッフが『作っておしまい』、となってしまっていると感じています。職員には、『一緒に作って、一緒に食べて、会話をする』、といった関わり方をしていくよう伝えています。どうしても業務でバタバタしている中で、時間の確保は難しいのですが、お風呂やそういったフレクの機会に関わりが増やせるようにしていきたいと思います。」

	<p>木村「ごもっともだと思います。Aさんを例にして申し訳ないのですが、名前を聞くと『A（名字）です』と答えてくれます。『あけみさん？』と違う名前で聞くと『違うよ』とお返事してくれます。その後に『なんでしたっけ？』と聞くと『B（名前）だよ』と、思い出して言えたりするんですね。それを発端に、4人テーブルに座っているので、前の人気が「B？」と反応したり、自分の名前を言ったり、と話しが始まります。日中、起きてリビングにいることが多いので、そういった会話の機会が増えるよう意識していきます。」</p> <p>宮井「栄養士として、食事やおやつの食事摂取状況の確認のために、ユニットに足を運ぶことはありますが、そういった意識でユニットに行つたことがなかったです。いわゆる雑談をしにユニットに足を運ばなければいけないと感じました。」</p> <p>B様「施設である以上、限られた人員で業務を安全に行わなければならないよね。おやつレク等、施設内で行うのもいいことだと思いますが、地域密着型の柏葉尾苑として、地域に開かれたレクになっていかなければならないのかな、と思います。ボランティアさんを募るとか、行事があれば開放するとか。他の施設では、学校との交流で、城北高校とか暁秀高校、門池小などと関わりを持ったり、加藤学園の生徒さんが合唱に来たり、と若い世代との交流の機会を作ったりしているそうです。外部の力を使ってもいいと思います。」</p> <p>手塚「ありがとうございます。よりよい施設になるよう、検討していきたいと思います。本日は、お集まりいただき、ありがとうございました。」</p> <p>次回開催予定 令和7年10月31日(金) 14:00~</p>
--	--